
スクリーン・ミニレポ 215号

2000年4月19日
大日本スクリーン製造株式会社
<http://www.screen.co.jp>

今月のニュース - - - - -

取締役委嘱業務の変更ほか、人事異動、機構改革
ソフトウェア事業本部の新設
プロキュアメント本部の新設
半導体機器事業本部の営業組織改革
セミコン・ヨーロッパ報告
12位にランクアップ、半導体製造装置売上ランキング
グラフィックアーツ事業の今期の方向
「drupa2000」に出展、独自の色管理コンセプトを提案
デジタル印刷システム「トゥループレス744」を開発、菊半サイズに対応
レーザー関連装置の新会社設立、シンガポールと共同研究
ISO14001、本社地区で更新審査

取締役委嘱業務の変更他、人事異動、機構改革

3/27、取締役委嘱業務の変更、執行役員・部長級・グループ企業取締役の人事異動、機構改革を発表。
詳細情報：http://www.screen.co.jp/press/NR000327_p.pdf

ソフトウェア事業本部の新設（4/1付）

分散していたソフト開発機能を集約し、事業本部として効率化を図る。各事業本部や関係会社からのソフト開発の受託、将来的には他社からの受託開発も行い、収益を追求していく。4月設立時は124人体制。

プロキュアメント本部の新設（4/1付）

これまで各製造部門に分散していた購買機能を統括管理する組織として「プロキュアメント本部」を新設。購買情報や契約等の一元管理を行うことで効率化を図り、部材仕入を中心に外注加工も含め、仕入額の大幅削減（全社の購入額の10%を削減）を、今下期から実施する。設立時は22人体制、7月には30人に増員予定。

半導体機器事業本部の営業組織改革（4/1付）

国内・海外に分かれていた営業組織を、ユーザー単位のグローバルな組織へ大幅に改革。これは、日米欧などの半導体メーカー各社が提携や受託生産の利用などで半導体生産の国際分業化やグループ化の動きが活発になっている状況に対応したものの。

「セミコン・ヨーロッパ2000」報告、欧州半導体業界が好況

当社は、4/4～4/6にドイツ・ミュンヘン・トレードフェアセンターで開催された展示会「セミコンヨーロッパ2000」に出展。出展社数は昨年比20%増の1,174社、来場者が25%増の12,000人と展示会の規模が拡大しており、欧州半導体業界の投資意欲がめざましく回復していることを示した。

当社は、パネル展示とプレゼンテーションを中心に、新機種として枚葉式洗浄装置「MP-2000」のほか、コータ/デベロッパ「SK-2000」および「SK-3000」、単槽式洗浄装置「FC-821L」「FC-3000」、スピンスクラバー「SS-80BW-AR」「SS-3000」を紹介し、0.13ミクロンレベルの微細化や300ミリウエハへの対応など高い技術力をアピールした。

半導体製造装置の詳細情報：http://www.screen.co.jp/eed_product/semi/indexJ.html

12位にランクアップ、半導体製造装置売上ランキング

米VLSIリサーチ社による1999年半導体製造装置メーカー売上ランキングにおいて、当社は6億48百万ドルの売上高で12位に選ばれた。これは昨年の14位からのランクアップで、洗浄装置の売上が大きく貢献した。

グラフィックアーツ事業の今期の方向

デジタル印刷機や通信サービス(GTRAX)などを統合したデジタルパブリッシング事業の展開を強化するため、トータルソリューションとしてハードウェアだけでなく、新たな運用管理の業務改革を提案し、幅広いサービスの提供によるビジネス展開を図る。また、部門数を先期の25部から今期17部に削減するとともに、階層も減らし意思決定を迅速化する。人員については先期期初974名をこの4月からは710名(他部門へのシフト、子会社への出向等)へ削減した。

GTRAXの詳細説明：<http://www.screen.co.jp/press/NR990831.pdf>

「drupa2000」に出展、独自の色管理コンセプトを提案

5/18～5/31までの2週間にわたりドイツ・デュッセルドルフで開催される世界最大規模の国際印刷総合機材展「drupa2000」に出展。「イノベーション&リライアビリティ(技術革新と信頼性)」をテーマにした当社ブースでは、独自の新概念「プリプレス&プリント・クオリティ・マネジメント(P2QM)」やCTP(Computer to Plate)、デジタル印刷、ワークフローなど各種機器やソリューションを紹介する。「P2QM」は、プリプレスからプレスまでのオフセット印刷物制作工程の色管理を飛躍的に向上させ、忠実な色再現を可能にする。また、常にインキ濃度を管理し、所定の濃度域になるようにインキキーのコントロールが可能。これにより、さらなる印刷品質の向上、より効率的な稼働、より省資源が追求できる印刷環境を提供する。

drupa2000展の詳細情報：http://www.screen.co.jp/press/NR000310_02p.pdf

CTPの詳細説明：<http://www.screen.co.jp/press/NR981202.pdf>

デジタル印刷システム「トゥループレス744」を開発、菊半サイズに対応

当社は、デジタル印刷システム「トゥループレス744」を開発した。これは、菊半サイズ(最大用紙サイズ:740×535ミリ)をカバーする最大印刷サイズA2ワイドの4色印刷機で、高速紙送り機構の採用により4色片面印刷で1時間あたり8,000枚の印刷を実現したものの。しかも、一般商業印刷に使用されているオフセット印刷方式の採用により高い品質の印刷ができることから、瞬発力が要求される中ロットのチラシ印刷など短納期の印刷に最適。

同システムは5/18～5/31の間ドイツ・デュッセルドルフにて開催される国際印刷総合機材展に出品し実演展示する。発売予定は2000年8月。参考価格は1億2,000万円で、初年度30台の販売を目指す。なお、この開発は(株)桜井グラフィックシステムズと共同によるもの。

詳細情報：http://www.screen.co.jp/press/NR000310_01p.pdf

レーザー関連装置の新会社設立、シンガポールと共同開発

4/3、レーザー関連装置の研究開発を行うベンチャー会社「(株)レーザーソリューションズ(本社:大阪市福島区/社長:奥村義久)」を設立。当社グループが保有するレーザー微細加工技術、画像処理応用技術を応用して、ハードディスク(HDD)製造装置や半導体製造装置の開発・研究を行う。

この開発にあたって、ハードディスクの研究で世界的に有名なシンガポールの研究機関、データ・ストレージ研究所(DSI)と共同開発契約を締結。新会社の社外取締役、レーザー微細加工の権威で、シンガポール大学教授およびDSIのレーザー・マイクロプロセッシング研究部門のマネジャー・陸永楓氏を迎えた。開発するHDD製造装置は、パソコン市場では内部に使用されるHDDのシェア獲得、機能・価格競争が激化している中、大容量・コンパクト・低価格化に対する要求に応えようというもの。レーザー微細加工技術を応用した洗浄技術を用いてより細かなパーティクルを除去しクリーン度を向上させることにより、磁気ヘッドの歩留まりを飛躍的に改善。磁気ヘッド表面構造の形成処理に必要なレジスト塗布と除去が不要になり、大幅な工程の短縮化とコストダウンが図れる。

*データ・ストレージ研究所 (DSI):

DSIは、シンガポール国家科学技術局とシンガポール大学が1992年に共同で設立した磁気技術センターを母体とし、光学技術研究所およびレーザー微細加工研究所を加えて1996年4月に新設。現在、磁気記録技術を中心としたデータ記憶分野で多くの企業・大学と共同研究を行っている。

*新会社の概要

資本金：9,500万円（大日本スクリーン製造（株） 出資 100%）

社員数：17名（役員を除く）

目標売上高：初年度 2億 5,000万、第3年度 5億円

詳細情報：http://www.screen.co.jp/press/NR000301_p.pdf

ISO14001、本社地区で更新審査

3/16～3/17、本社地区では（株）日本環境認証機構によりISO14001の更新審査を実施。これは、3年ごとに実施され、当社の環境管理活動の取り組み状況を確認するもの。同機構は、本社・五条・西京極事業所を視察し、現場の取り組み状況をチェック。若干の改善点が求められたものの審査に合格した。なお、当社では、昨年12月で国内の全製造事業所および本社、東京地区の管理系事業所がISO14001の認証取得を完了している。

環境ホームページ：http://www.screen.co.jp/corporate/ISO14000/Environment_index.html

Copyright (C) 2000、大日本スクリーン製造株式会社 広報室

<http://www.screen.co.jp>

TEL:075-414-7233

掲載記事の無断転載を禁じます。
